



「学校体育功労者賞を受賞して」

合志市立合志中学校 前校長 境 敬一郎

この度、令和5年度熊本県学校体育功労者賞の栄誉をいただきました。熊本県中学校体育研究会並びに熊本県中学校体育連盟のはからいのもとより、学生時代に薫陶を受けた恩師の先生方はじめ、友人や後輩、さらには教師時代に出会った多くの教え子や保護者の皆様、共に汗を流してきた職場の皆様、熊本県並びに菊池郡市中学校体育研究会の皆様、私と関わってくださった多くの皆様とのご縁があったからこそ、この度の受賞があると思っております。

昭和62年4月、上益城の山間にある中学校で保健体育の教師として教師の第一歩を踏み出しました。隙間風が入る教室、職員室、古い便所、狭い運動場と体育館、担任をした1年生11人、「24の瞳」ならぬ「22の瞳」とともに過ごした空間は今でも脳裏に焼き付いています。部活動で初めて指導したバレーボールとの出会いもまた、私の体育教師としての教職人生に大きな影響を与えました。保健体育やバレーボールに出会っていなければ出会うことのなかった県内外の関係者の方々から学ばせていただいた多面的・多角的に物事をとらえる視点がその後の私の様々な考え方の基盤にあると思っております。

4校目となった中学校では、菊池郡市中体研の授業研を3年連続で引き受け、ご指導・ご助言をいただき、多くの学びを得ることができたことが、特に思い出に残っています。また、熊本県学校体育研究会や九州学校体育研究会にも多く参加させていただき、工夫された授業からたくさんの学びを得るとともに、保健体育の先輩方や仲間と交流を深めることができたことは、私にとって大きな財産となりました。

教職最後の3年間は、中学校の校長として中体研にも関わらせていただくことができ、教諭時代とは違う視点で学校体育の在り方を考えることができました。新型コロナウイルス感染症まっただ中で、制限を余儀なくされた環境にあっても、保健体育をとおして生徒に真摯に向き合おうとしている先生方に、頭の下がる思いがしました。少しでもその先生方の支えになることができたらと思い過ごした最後の3年間はあっという間に過ぎましたが、逆に保健体育の先生方に支えていただくことが多く、なんとか退職を迎えることができたと感じています。

あらためて、36年間の教職生活を振り返って思うことは、やり直すことができるならば、生徒指導に明け暮れた当時に、もっと授業づくりにも力を入れておけばよかったということです。現在の学校体育が大きな節目の時を迎えており、部活動をはじめ中学校体育連盟が変革期にあると思います。熊本県並びに各郡市中体研や中体連においても様々な課題に直面することが予想されますが、保健体育に関わられる先生方には、これまでの先輩方から受け継がれてきた伝統と絆、目の前にいる生徒が保健体育を好きになるために何をなすべきかという熱い思いを大切にしながら、授業づくりに力を入れていただければと願うばかりです。

私はすでに教職から身を引いていますが、これからもこの栄誉に恥じることはないよう、一人の体育人として、私がこれまで関わってきた保健体育やバレーボールの「つなぐ力」を地域に育んでいけたらと考えています。

末筆ながら、熊本県中学校体育研究会並びに熊本県中学校体育連盟の益々のご発展と、関係の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。